

2020年度連結決算 及び 中期経営計画

2021年5月14日

株式会社 西島製作所 (6363)

【1】 2020年度の実績

**【2】 2050長期ビジョンと
2024中期経営計画 -Beyond110-**

【3】 2021年度の予想

【1】 2020年度の実績

【2】 2050長期ビジョンと
2024中期経営計画 -Beyond110-

【3】 2021年度の予想

2020年度 連結決算概略

		前年度比
● 受注高	— 491億円	+ 3億円
● 売上高	— 508億円	+37億円
● 営業利益	— 36億円	+24億円
● 経常利益	— 46億円	+33億円
● 当期利益	— 34億円	+29億円

親会社株主に帰属する

2020年度 連結決算実績（連結）

受注：官需は9.0%増、民需は3.0%増、海外は8.4%減、全体では0.5%増の491億円。

売上：官需は19.9%増、民需は1.0%減、海外は2.3%増、全体では7.8%増の508億円。

利益：経費の削減や引当金の減少などにより営業利益は24億円増。年度末に円安が進み為替差益を計上したことや保険金等雑収入の増加があったことなどから経常利益は33億円の増益。

※増減は前年度比

単位：億円

	2019年度	2020年度	前年度比		2020年度 計画値 (20年11月公表)	計画比	
			額	率		額	率
受注高	488	491	+3	+0.5%	460	+31	+6.7%
売上高	471	508	+37	+7.8%	470	+38	+8.1%
売上総利益 (売上総利益率)	123 (26.1%)	135 (26.6%)	+12 (+0.5pt)	+9.8%	122 (26.0%)	+13 (+0.6pt)	+10.7%
販管費	111	99	▲12	▲10.8%	105	▲6	▲5.7%
営業利益 (営業利益率)	12 (2.5%)	36 (7.1%)	+24 (+4.6pt)	+200.0%	17 (3.6%)	+19 (+3.5pt)	+111.8%
営業外損益	1	10	+9	+900.0%			
経常利益	13	46	+33	+253.8%	16	+30	+187.5%
特別損益	▲3	▲1	+2	-			
親会社株主に帰属する 当期純利益	5	34	+29	+580.0%	12	+22	+183.3%

期末レート（1USD）

2020/3末:108.83

2021/3末:110.71円

2020年度 連結決算実績（単体・子会社別）

■ 単体

単位：億円

	2019年度	2020年度	前年度比	
			金額	%
売上高	378	406	+28	+7.4%
売上総利益 (営業総利益率)	77 (20.4%)	87 (21.4%)	+10 (+1.0pt)	+13.0%
販管費	75	63	▲12	▲16.0%
営業利益 (営業利益率)	2 (0.5%)	24 (5.9%)	+22 (+5.4pt)	+1,100%

- ✓ 増収及び粗利率の上昇により、売上総利益は10億円増。
- ✓ 経費の減少や貸倒引当金の減少などにより販管費が12億円減少し、営業利益は22億円増。

※増減は前年度比

■ 子会社（連結－単体）

単位：億円

	2019年度	2020年度	前年度比	
			金額	%
	93	102	+9	+9.7%
	46 (49.5%)	48 (47.1%)	+2 (▲2.4pt)	+4.3%
	36	36	±0	±0%
	10 (10.7%)	12 (11.8%)	+2 (+1.1pt)	+20.0%

- ✓ コロナによりサービスの営業活動が思うように進まずサービス子会社の売上が減少したものの、中国の生産工場が牽引して売上は増加、営業利益も2億円増。

2020年度決算まとめ

- ✓ 世界的なコロナ禍が続く中でも堅実な需要に支えられ**単体が牽引**。

官公需：**気候変動対策向けポンプ**の技術が評価され**大きく増収**。

民 需：コロナ禍の影響は心配されたが**前年度並みを維持**。

海 外：海外子会社に関しては、サービスはコロナの影響が大きく、

減速しているものの、回復の早かった**中国が牽引し増収**。

単体に関しては、備船等のリスクはあったものの出荷が順調に進み、

売上微増。

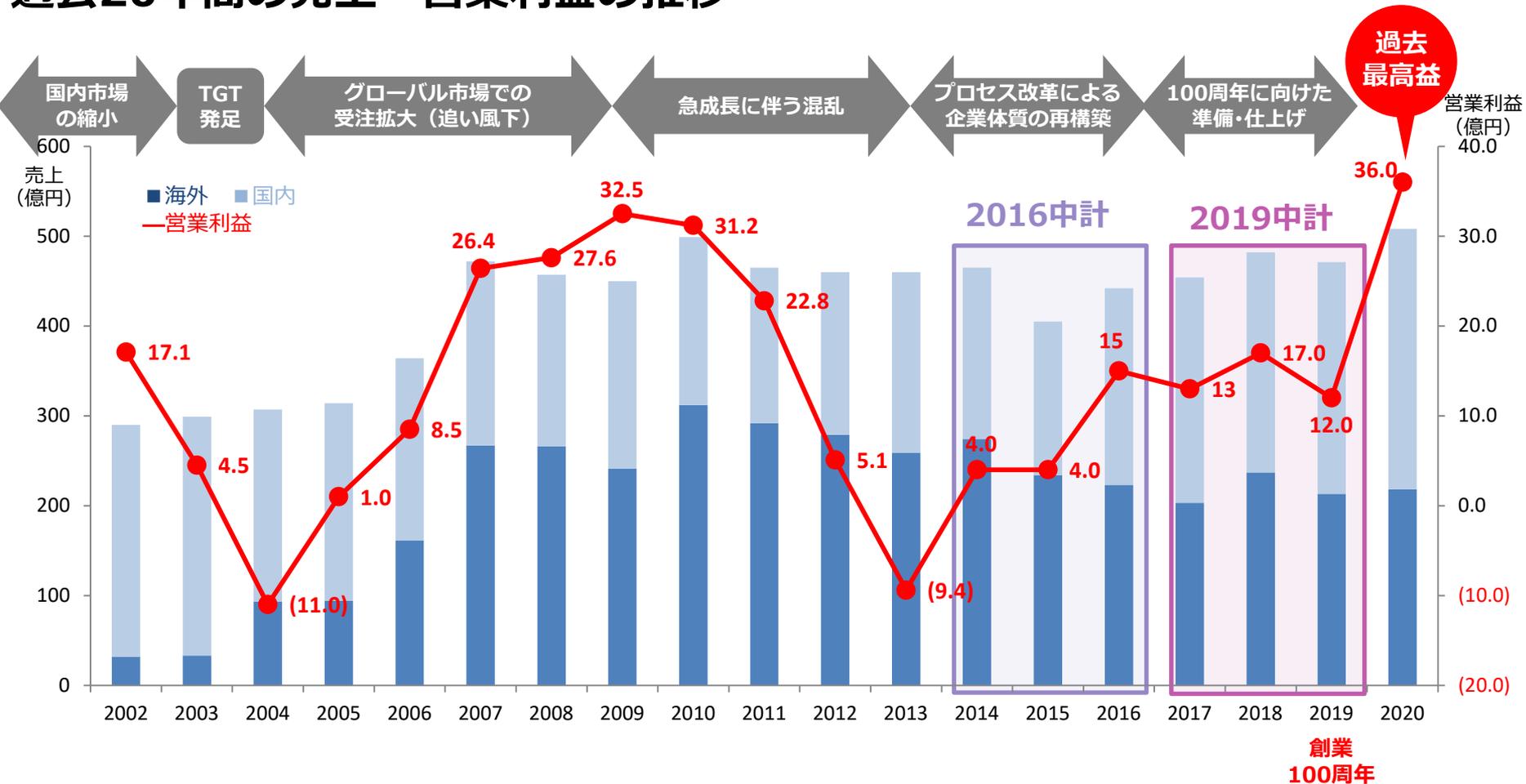
- ✓ 働き方改革による業務の効率化などにより**販管費が大きく削減**
- ✓ 全体で**増収増益**を達成。

【1】 2020年度の実績

【2】 2050長期ビジョンと
2024中期経営計画 -Beyond110-

【3】 2021年度の予想

過去20年間の売上・営業利益の推移



2016年度～2020年度の振り返り②

2016年 「パリ協定」が発効

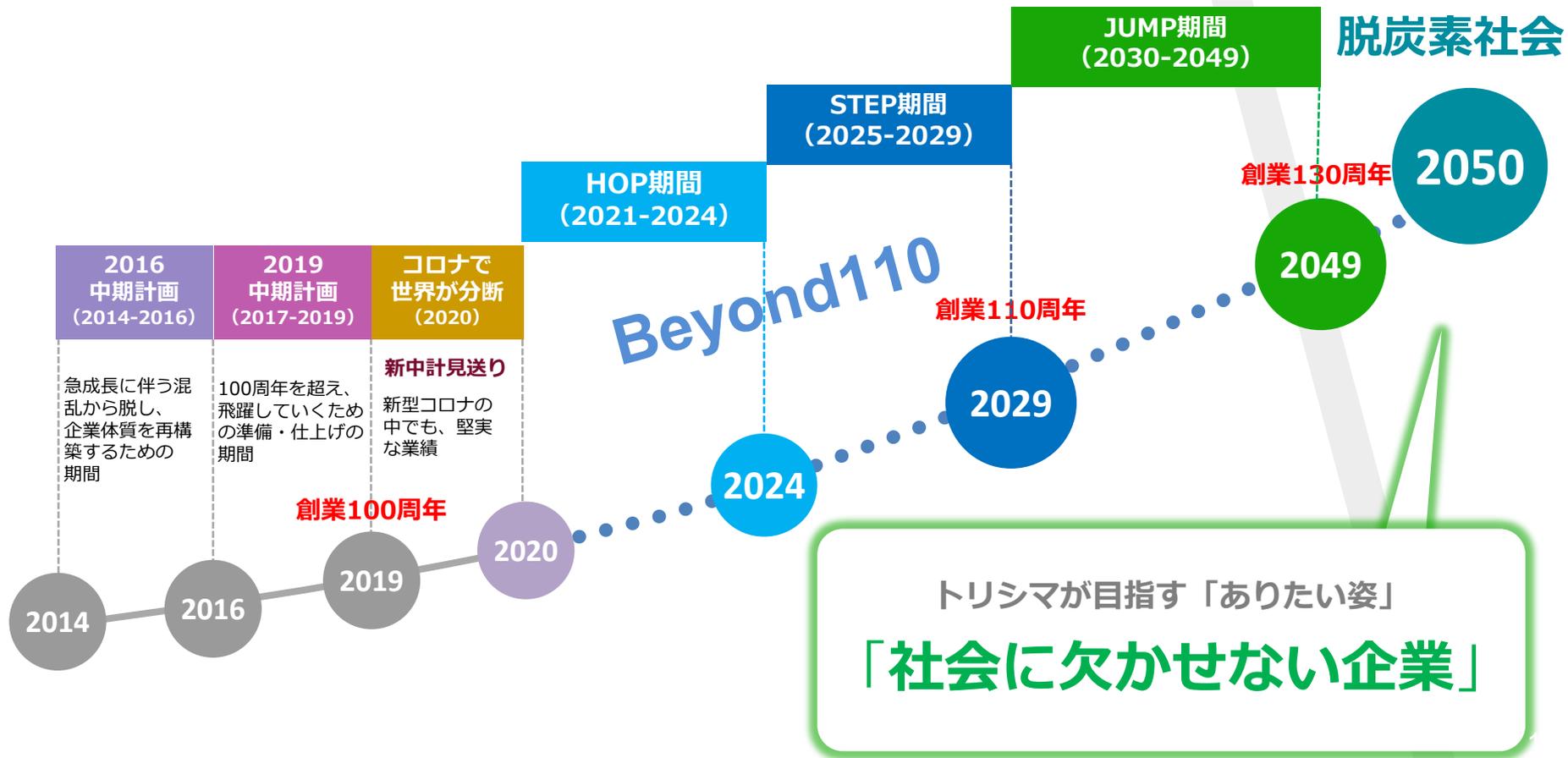
2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組み
世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、1.5℃に抑える努力を
追求することを目的

→ **2050年までに脱炭素社会の実現が必要**

2020年 1月 **パンデミック発生**

2020年10月 **日本も2050年
カーボンニュートラル宣言**

2050年 脱炭素（カーボンニュートラル）社会の実現に向けて

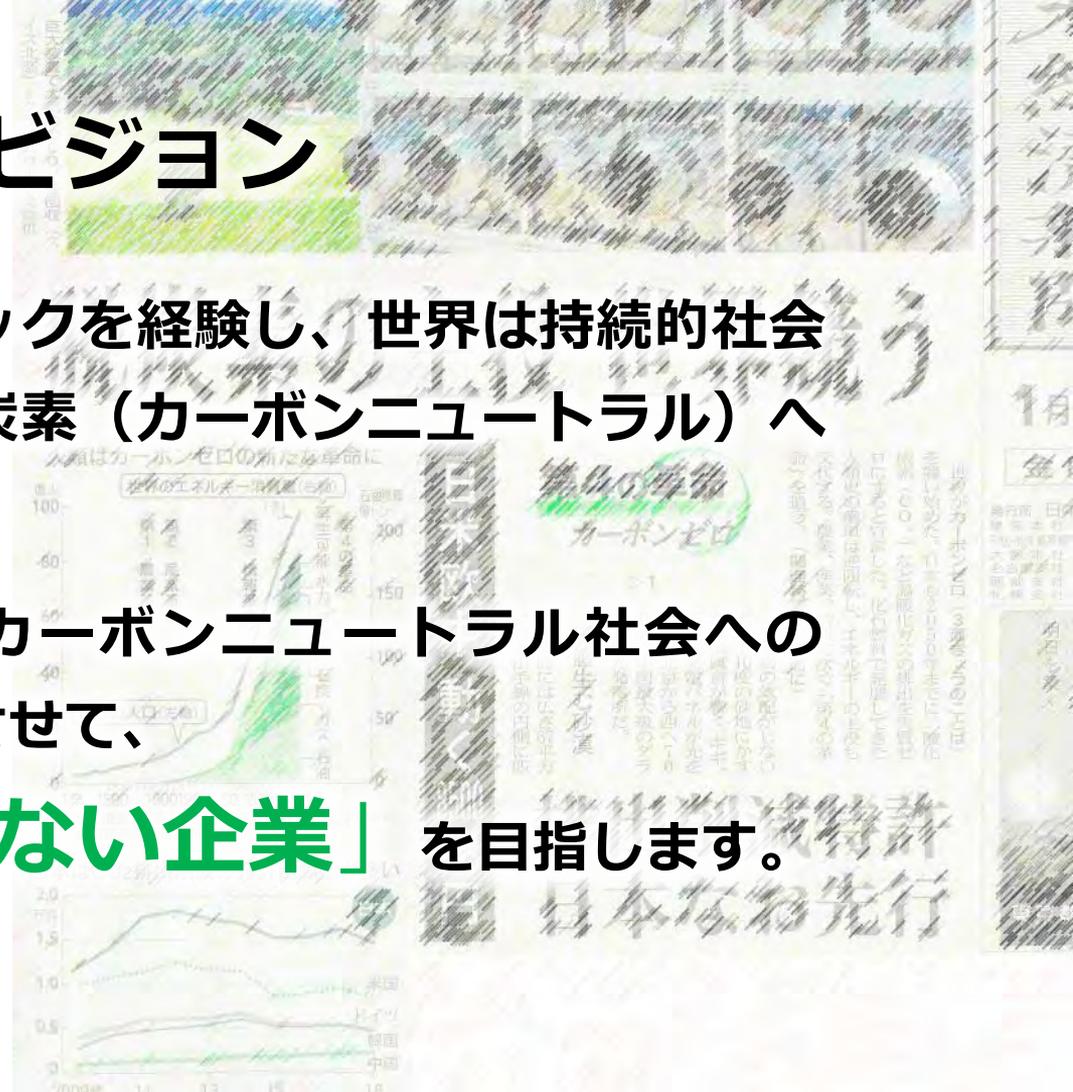


長期ビジョン

人類を脅かすパンデミックを経験し、世界は持続的社会の構築を目指して、脱炭素（カーボンニュートラル）へ大きく動き出しました。

トリシマは、2050年カーボンニュートラル社会への貢献と事業成長を両立させて、

「社会に欠かせない企業」を目指します。



長期ビジョンを見据えた中期経営計画 Beyond110

Beyond110

2013—2019

創業100周年を超えて
飛躍するための基盤づくり

- ✓ コア製品の強化
- ✓ 省エネビジネスの推進
- ✓ サービス拠点の拡大
- ✓ TR-COM (IoT) の推進
- ✓ 製品標準化の推進
- ✓ 基幹システムの刷新

2020

新型コロナ

リモート
ワークの
常態化

働き方改革
の推進

新本社工場
ビル完工

2021—2024(HOP)

短期ベースの社会貢献事業（既存技術のダントツ化）

- ① スーパーエコポンプによる省エネ推進
- ② 気候変動対策向けポンプによる減災技術の推進
- ③ TR-COMによるデータに基づくスマートメンテナンスの提供
- ④ アンモニアを取扱うポンプの高機能化

中・長期ベースの社会貢献事業（新技術開発の推進）

- ⑤ 水素・CO2を取扱うポンプの研究開発 → 市場への実機投入
- ⑥ 風力発電事業への人・モノ・カネの投入 → 洋上風力発電を含めたサービス事業の充実

創業

110周年

2030-(JUMP)

社会課題を
解決する
製品・
サービス
を通じて
持続的に
企業価値を
拡大

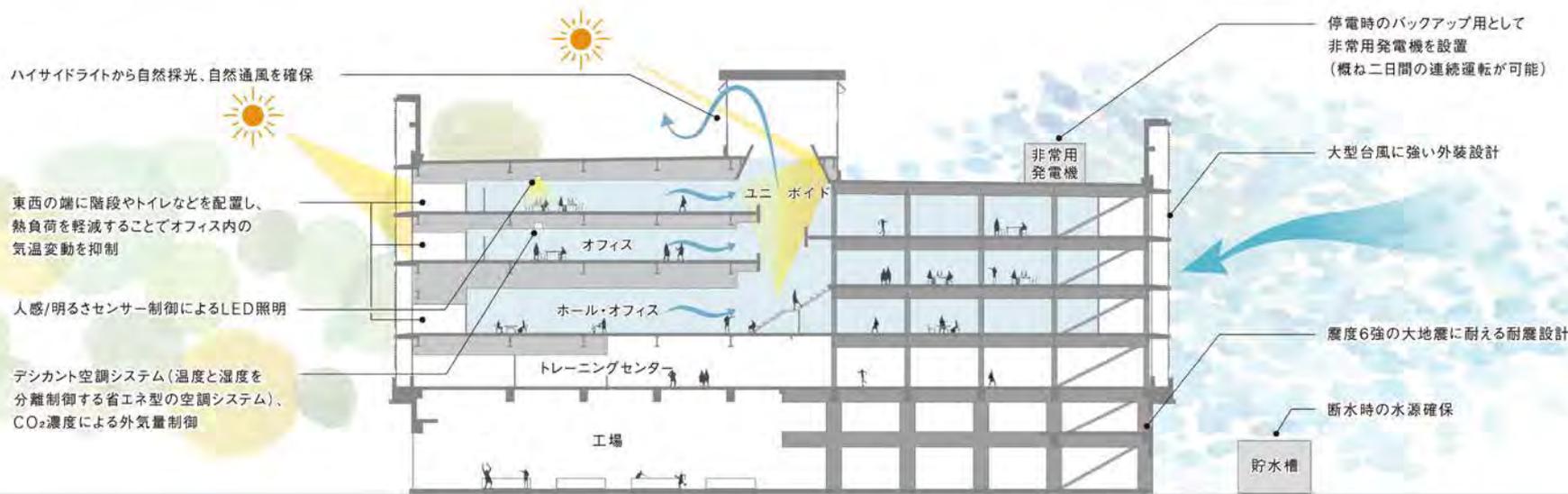
— 土台となる基盤 —

「社員活力の最大化」 「ESG経営」

社員活力の最大化とESG経営の拠点①

地球に優しく、災害に強い最先端ビル

新本社工場ビルは、大幅な省エネ化を図ることで地球環境を守り、また、災害時にも機能を維持し、従業員の命を守るとともにお客様の事業を継続支援できるよう、安心・安全を徹底追及した設計としています。



ZEB Oriented 建築

当ビルは、環境に優しい建物として、年間エネルギー消費量を従来に対して40%以上削減した、「ZEB Oriented」の評価基準を達成しました。



100%グリーン電力を活用

当ビルにおける年間使用電力量(約125万kWh)の100%は、日本自然エネルギー株式会社の手掛ける「グリーン電力」で賄われています。



日本自然エネルギー株式会社は、グリーン電力証書発行事業者の一つで、木材などのバイオマスや、風力、太陽光、水力といった再生可能エネルギーの「グリーン電力証書」を契約事業者に発行しています。

災害に強く、従業員の命を守りながら事業も継続

西島製作所の心臓部となる当ビルは、災害時に従業員の生命と資産を守り、お客様の事業を支援し続けられる安心・安全な設計としています。例えば、耐震設計により、震度6強の大地震でも継続利用できる耐震性を確保、また、大型台風にも強い外装づくりを実現しました。さらに、給水と電力の設備バックアップを図ることにより、災害時にも機能を維持し続けることができます。

社員活力の最大化とESG経営の拠点②

壁をなくし、部門間の交流を促すオフィスエリア



フリースペースで最適な働き方を選べる



オフィスエリアの下に工場を配置

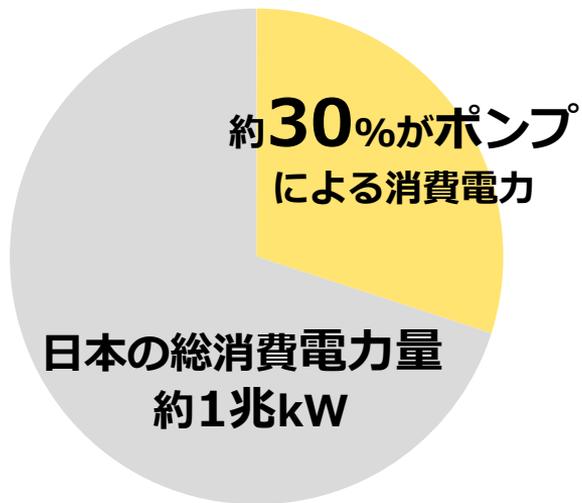


工場とオフィスの一体化



短期ベースの社会貢献事業①-1

スーパーエコポンプによる省エネ推進



出典：一般財団法人エネルギー総合工学研究所

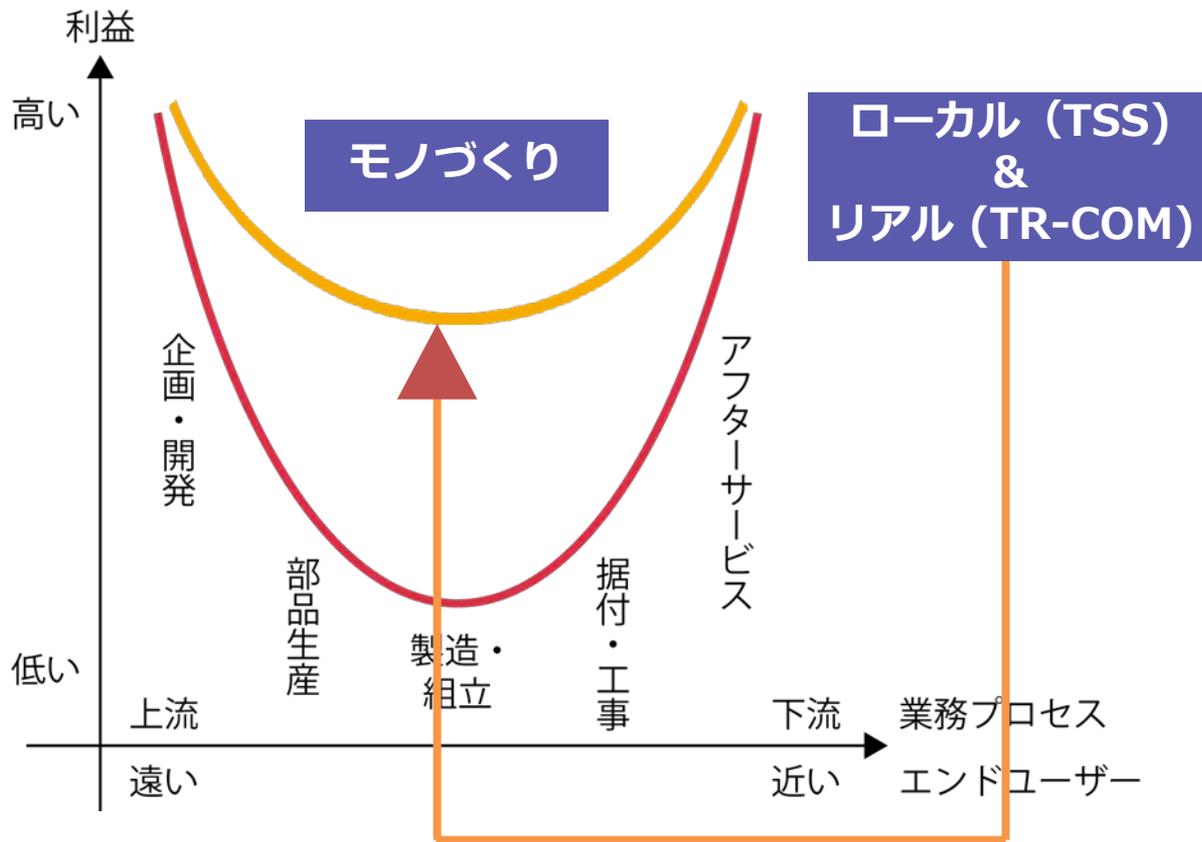


出典：環境省

「**ポンプdeエコ**」による
ポンプの省エネ化（最適化）がいま再び注目、期待されている
トリシマが**トップランナー**として**省エネを牽引**する！

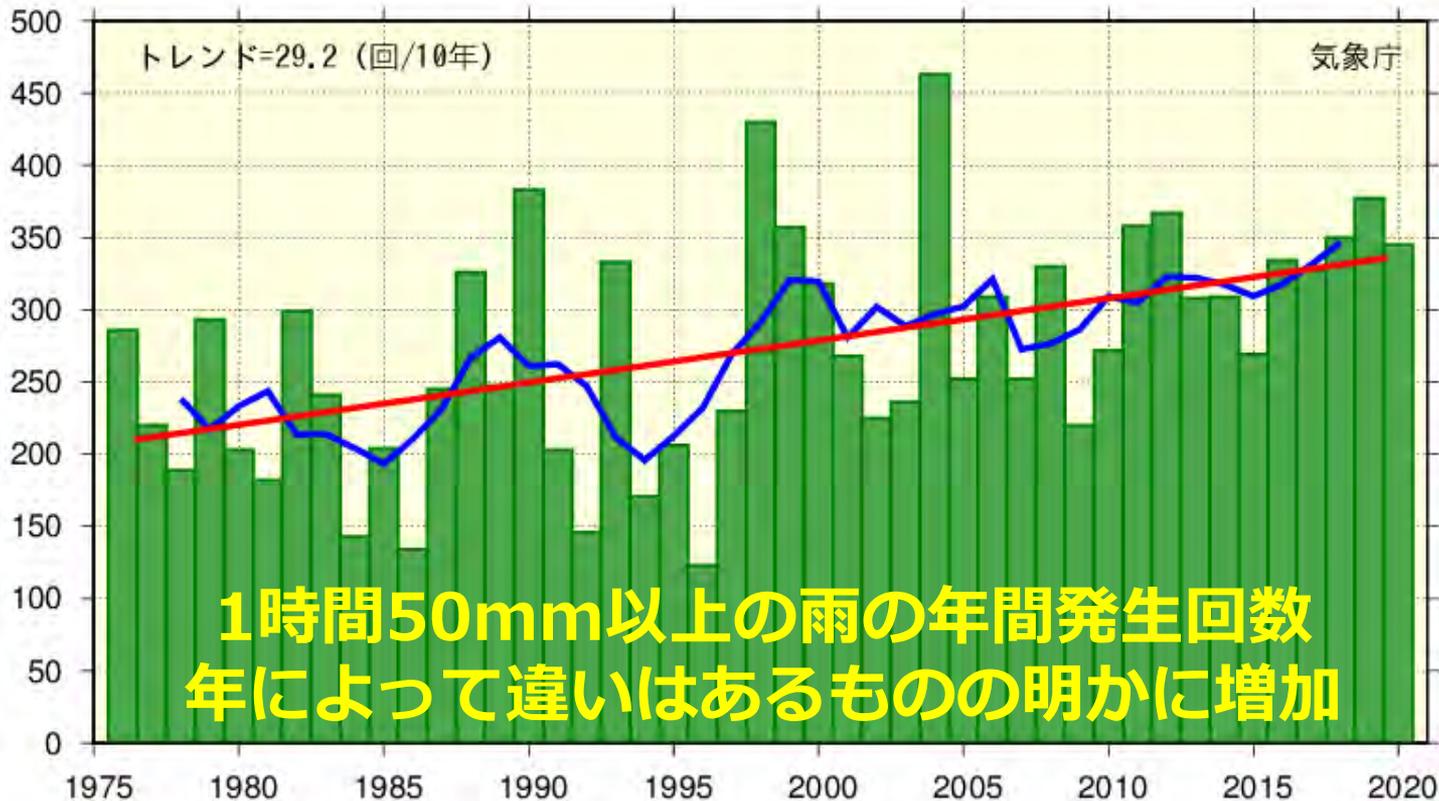
短期ベースの社会貢献事業①-2

スーパーエコポンプによる省エネ推進（利益率の向上）



短期ベースの社会貢献事業②-1

気候変動対策向けポンプによる減災技術の提案



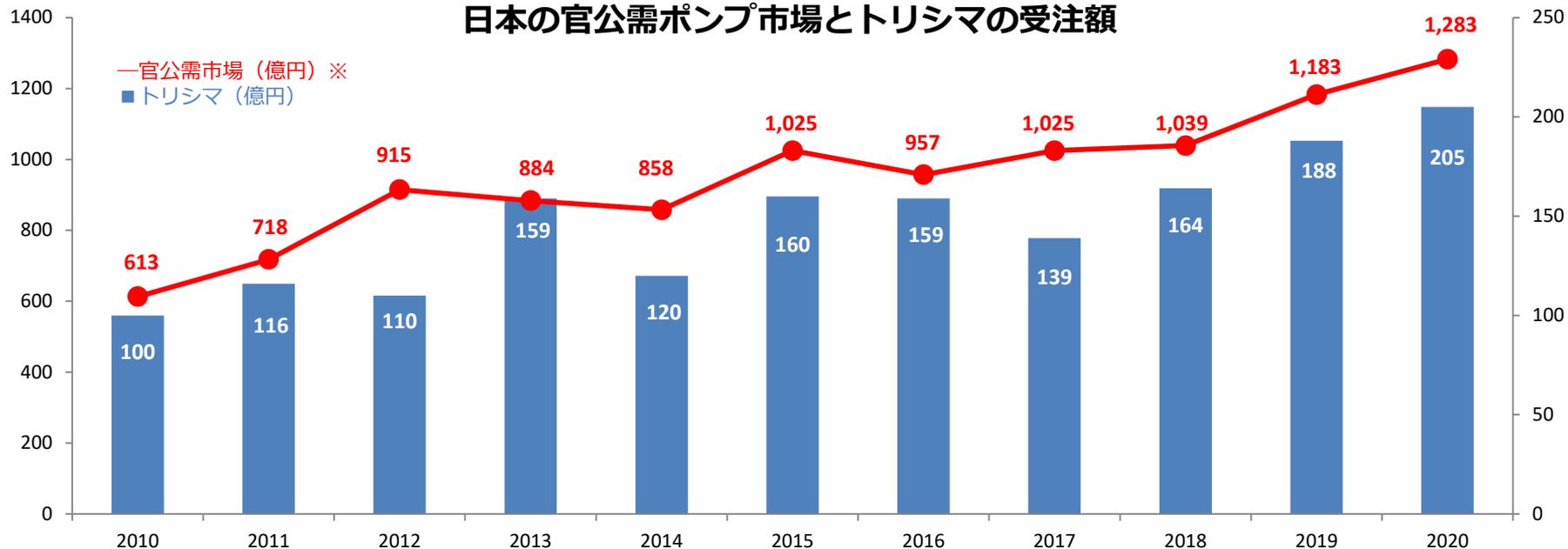
※出典：気象庁 青線は5年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。

短期ベースの社会貢献事業②-2

気候変動対策向けポンプによる減災技術の提案

日本の社会インフラは高度成長期に集中して整備されており、今後20年で建設後40年以上経過する施設の割合が高くなっている。この需要にしっかりと応えていくことで社会貢献するとともに事業の成長を支える。

日本の官公需ポンプ市場とトリシマの受注額

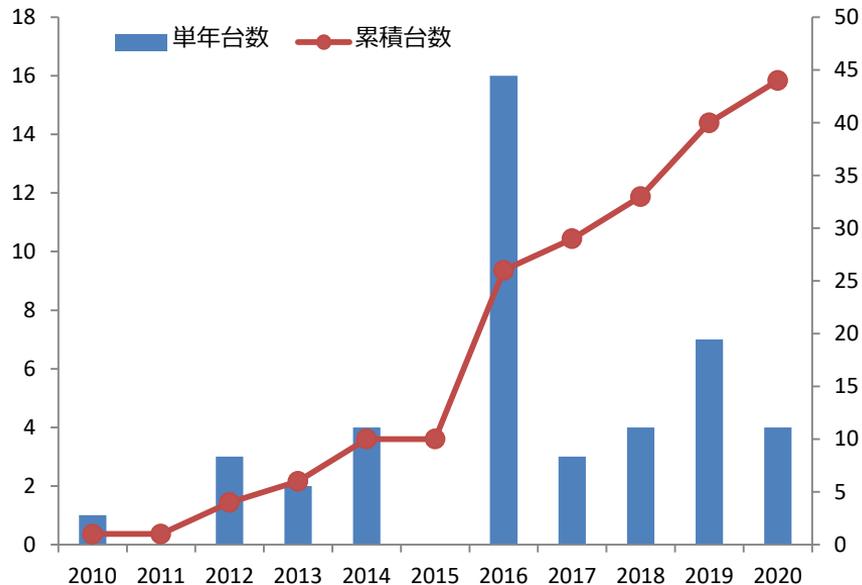


短期ベースの社会貢献事業②-3

気候変動対策向けポンプによる減災技術の提案

トリシマは、昨今頻発する水害に対し、オンリーワンの技術提案を行うことで高評価を得て、堅実な受注につなげています。

二重ラップカンと渦対策リング受注台数推移



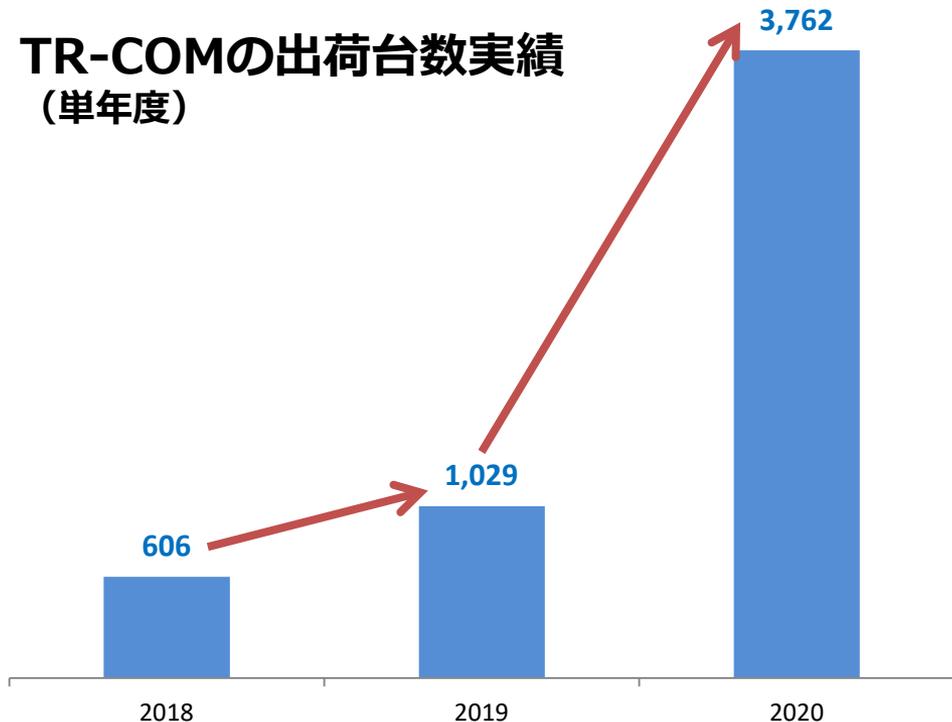
耐水モーター体型受注台数推移



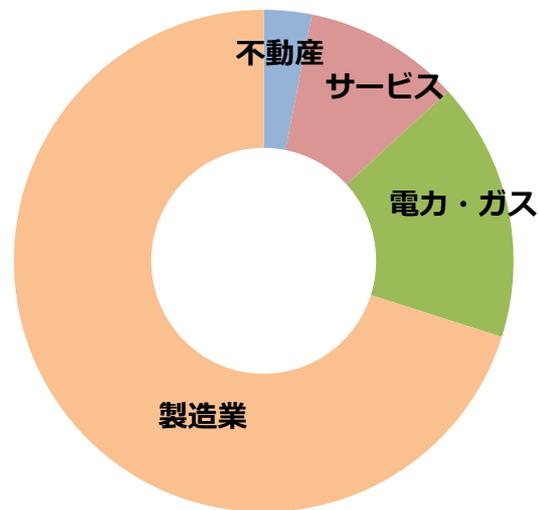
短期ベースの貢献事業③-1

TR-COMによるデータに基づくスマートメンテナンス提供

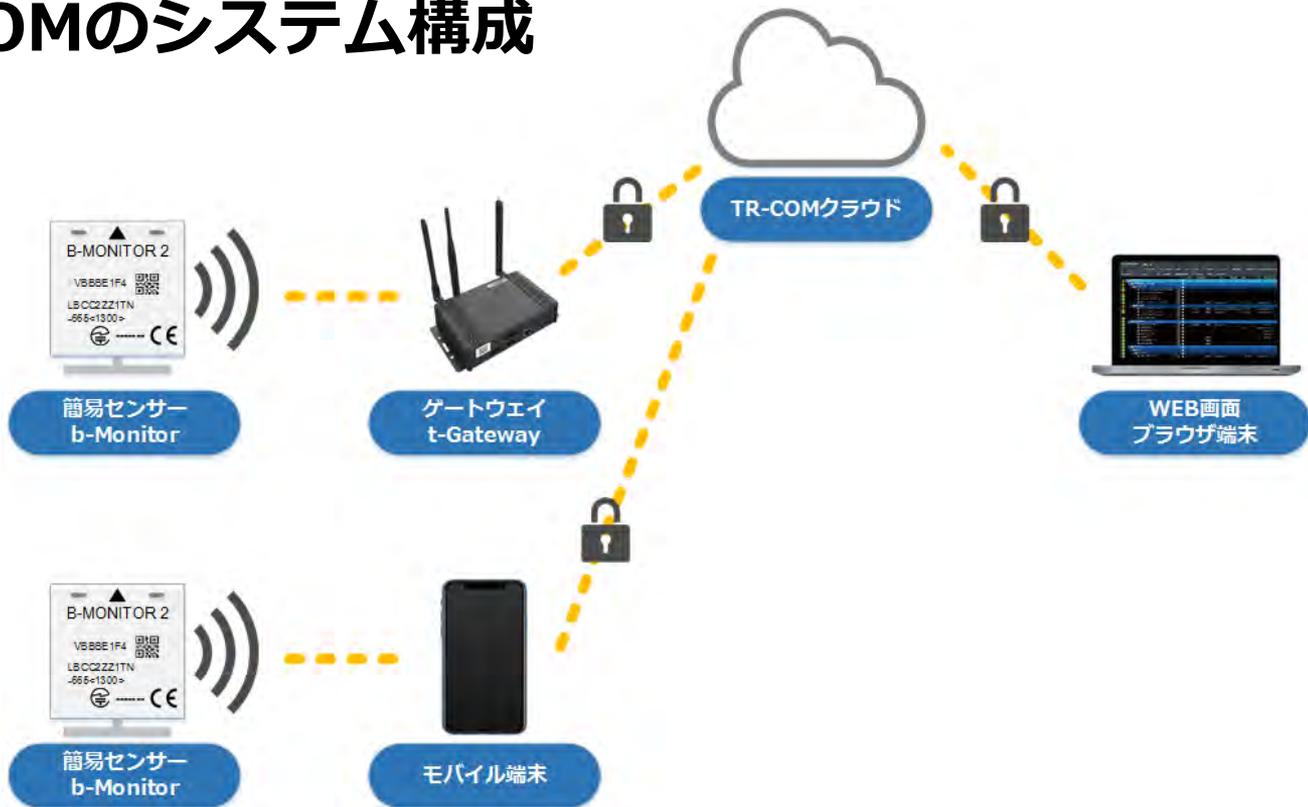
TR-COMの出荷台数実績
(単年度)



TR-COMの納入先業種



TR-COMのシステム構成



短期及び中・長期ベースの社会貢献事業④⑤

化石エネルギーからクリーンエネルギーへの転換 (アンモニア・水素ポンプの開発)

脱炭素社会実現のためにはアンモニアや水素などクリーンエネルギーの活用が期待されるが、気体のままでは大量運搬・貯蔵がしにくく、**液化の必要**あり。
→**大型で高性能な遠心ポンプの需要**が見込まれる

短期ベースの社会貢献事業

アンモニア

すでに実用化の段階。国内外で様々なプロジェクトが進行中

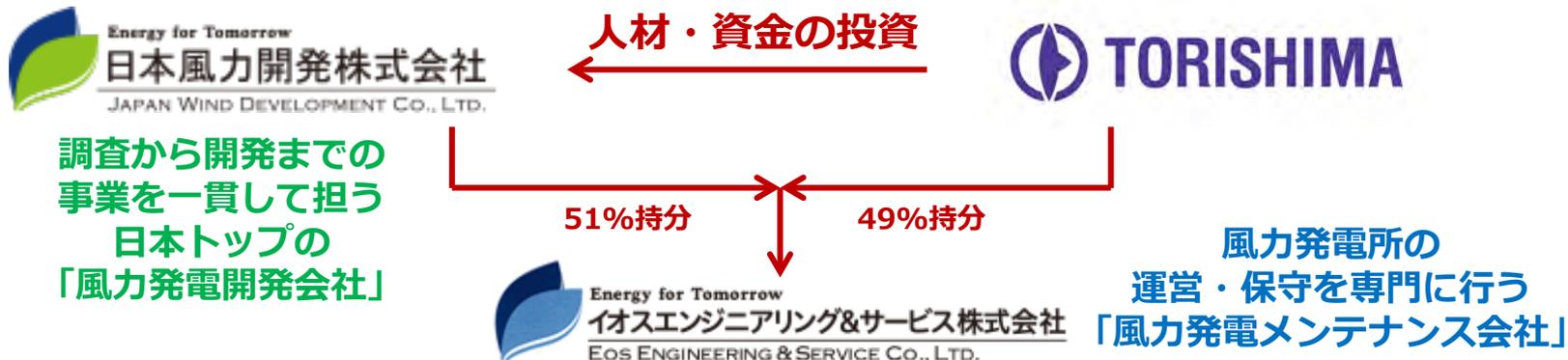
中・長期ベースの社会貢献事業

水素

技術開発の課題を克服して、実用化は2030年度以降と見込まれる

中・長期ベースの貢献事業⑥ 風力発電事業への再注力

日本風力開発株式会社（JWD）とのアライアンスの強化



脱炭素社会へ向けた日本のビジョン 出典：一般社団法人 日本風力発電協会

2020年：洋上風力+陸上風力=4.5GW

2030年：洋上風力**10GW**+陸上風力**26GW**=**36GW**

2050年：洋上風力**90GW**+陸上風力**40GW**=**130GW**

中期経営計画Beyond110の財務目標

単位：億円

	2020年度 実績	HOP期間		STEP期間
		初年度	最終年度	最終年度
		2021年度予想	2024年度目標	2029年度目標
売上高（億円）	508	520	550	600以上
営業利益 （営業利益率）	36 (7.1%)	36 (6.9%)	44 (8.0%)	50以上 (8.3%以上)
経常利益 （経常利益率）	46 (9.1%)	38 (7.3%)	47 (8.5%)	56以上 (9.3%以上)
ROE	9.5%	7.0%	8.5%	8.5%以上
総還元性向	26.8%	31.6%	40%をめざす	40%以上

【1】 2020年度の実績

【2】 2050長期ビジョンと
2024中期経営計画 -Beyond110-

【3】 2021年度の予想

空白

2021年度連結決算予想

単位：億円

	2020年度 実績	2021年度 予想	増減	
			額	率
受注高	491	500	+9	+1.8%
売上高	508	520	+12	+2.4%
売上総利益 (売上総利益率)	135 (26.6%)	138 (26.5%)	+3 (▲0.1pt)	+2.2%
販管費	99	102	+3	+3.0%
営業利益 (営業利益率)	36 (7.1%)	36 (6.9%)	±0 (▲0.2pt)	±0
経常利益	46	38	▲8	▲17.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	33	27	▲6	▲18.2%
一株当たり配当金	21	32	11円の増配	
配当性向	16.6%	31.6%		

為替レート (1USD)

2021/3末:110.71円

105円を措定

■ 単体

単位：億円

単位：億円	2020年度	2021年度	前年度比	
			金額	%
売上高	406	420	+14	+3.4%
売上総利益 (営業総利益率)	87 (21.4%)	92 (21.9%)	+5 (+0.5pt)	+5.7%
販管費	63	66	+3	+4.8%
営業利益 (営業利益率)	24 (5.9%)	26 (6.2%)	+2 (+0.3pt)	+8.3%

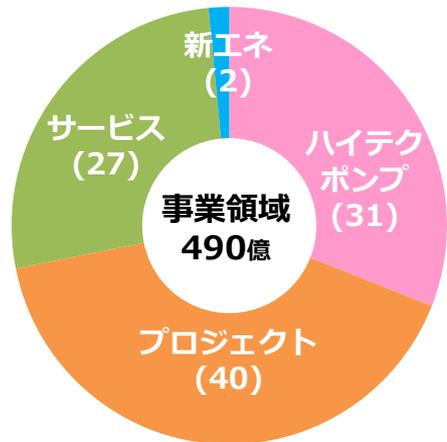
■ 子会社（連結－単体）

単位：億円

2020年度	2021年度	前年度比	
		金額	%
102	100	▲2	▲2.0%
48 (47.1%)	46 (46.0%)	▲2 (▲1.1pt)	▲4.2%
36	36	±0	±0%
12 (11.8%)	10 (10.0%)	▲2 (▲1.8pt)	▲16.7%

參考資料

事業領域及び需要先 (2020年度受注高実績 括弧内は構成比)



ハイテクポンプ

発電所や海水淡水化プラント、上下水道施設、かいがい施設など向けの大型ポンプ（エンジニアリングポンプ）及び一般産業向けのエコポンプ（小型標準ポンプ）。

プロジェクト

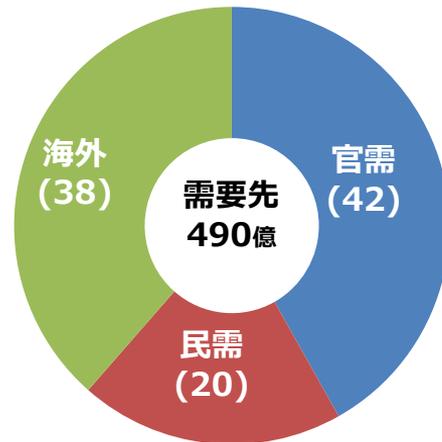
上下水道、かいがい、排水ポンプ場におけるポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）案件。

サービス

既存ポンプ及びポンプ設備の取替え、保守点検、REDU（Re-Engineering & Design Up）、SV（スーパーバイザー）の派遣、部品交換など。

新エネルギー・環境

風力発電や小水力発電の導入における設計・施工・メンテナンス。
環境装置（農業集落排水向け真空式下水道収集システム）



官公需

日本国内の国及び地方公共団体向け。上下水道施設、排水施設及びかいがい施設など。

民需

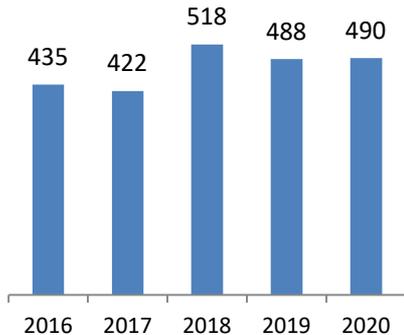
日本国内の民間企業向け。火力発電所（事業用、バイオマス発電やごみ焼却発電、自家発電含む）、一般産業の各種工場、ビル設備、商業施設など。

海外

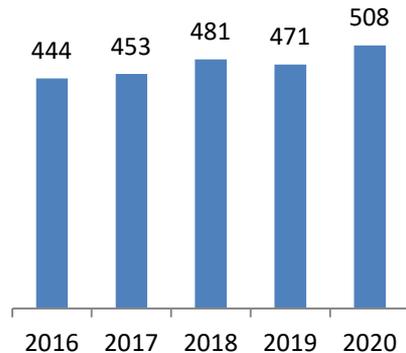
海外向け海水淡水化プラント、火力発電所、上下水道施設かいがい施設など。

連結決算 5年間の推移 (単位：億円)

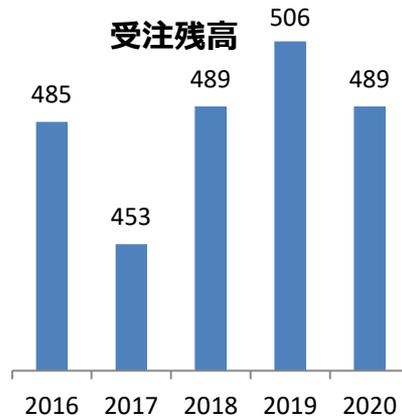
受注高



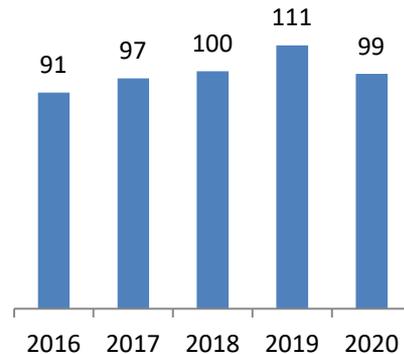
売上高



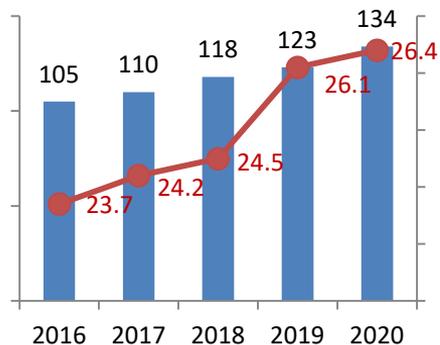
受注残高



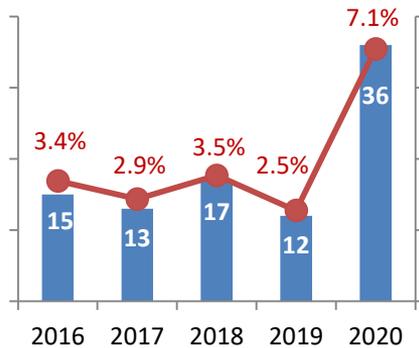
販管費



売上総利益/利益率



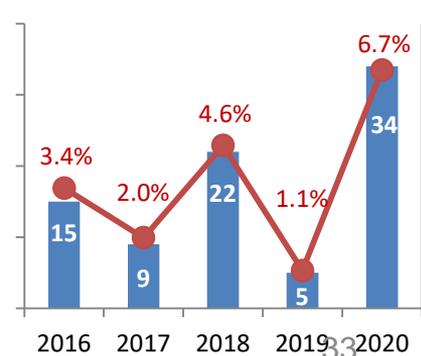
営業利益/利益率



経常利益/利益率



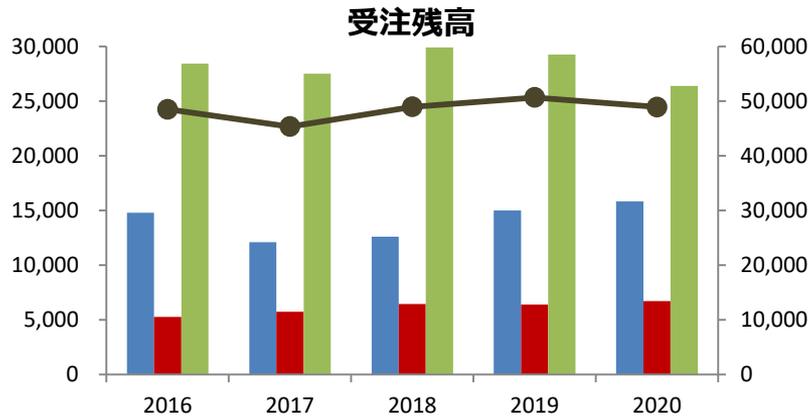
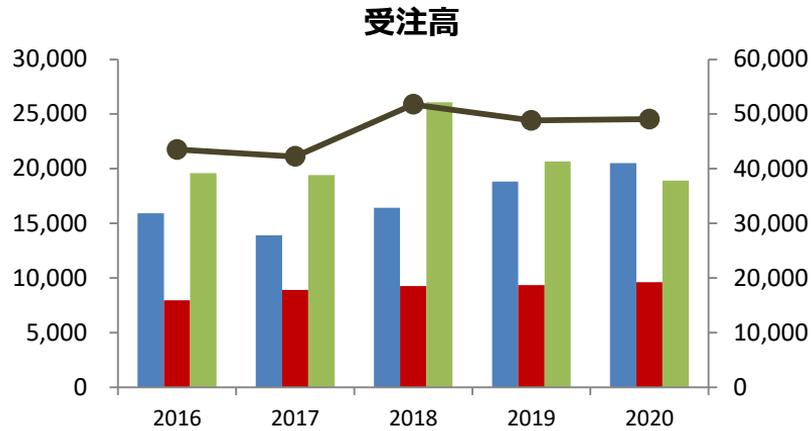
当期純利益



需要先別受注残高・受注高・売上高 (百万円)

	2019年度			2020年度		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
官 需	18,813	16,412	14,987	20,504	19,682	15,808
前年増減率	14.5%	3.0%	19.1%	9.0%	19.9%	5.5%
民 需	9,339	9,387	6,399	9,623	9,297	6,724
前年増減率	0.9%	9.9%	▲0.8%	3.0%	▲1.0%	5.1%
海 外	20,672	21,326	29,253	18,928	21,807	26,374
前年増減率	▲20.7%	▲10.0%	▲2.2%	▲8.4%	2.2%	▲9.8%
合 計	48,824	47,126	50,640	49,055	50,787	48,908
前年増減率	▲5.7%	▲2.1%	3.5%	0.4%	7.7%	▲3.4%

受注高・売上高・受注残高の推移 (需要先別)



左軸
■ 官需 ■ 民需 ■ 海外

右軸
● 合計額

単位：百万円

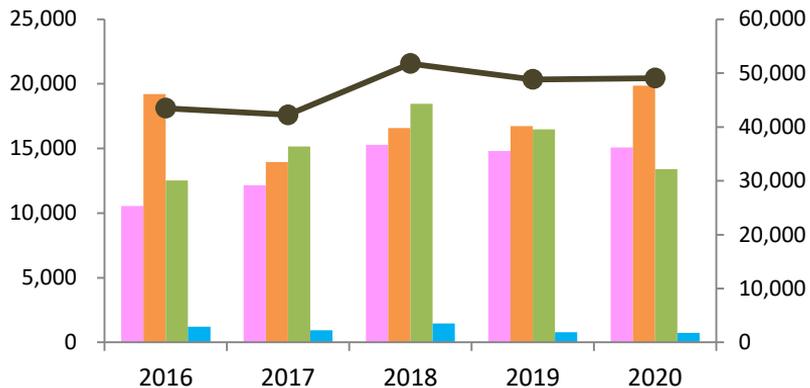
事業分野別受注高・売上高・受注残高

単位：百万円

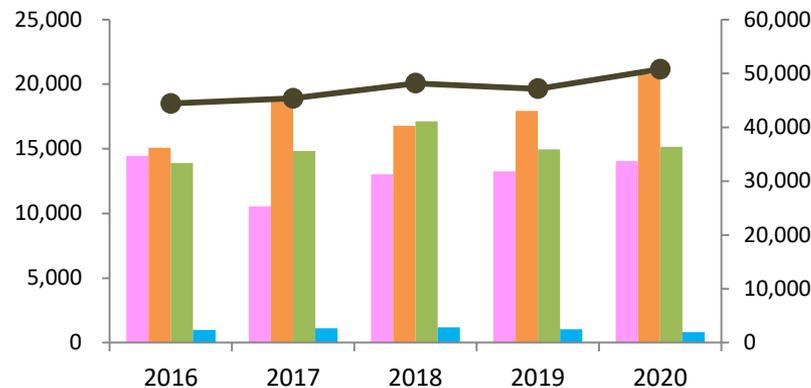
	2019年度			2020年度		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
ハイテクポンプ	14,815	13,241	19,642	15,068	14,050	20,660
前年増減率	▲3.0%	▲1.5%	8.7%	1.7%	6.1%	5.2%
プロジェクト	16,729	17,924	21,597	19,850	20,765	20,682
前年増減率	0.9%	6.8%	▲5.2%	18.7%	15.9%	▲4.2%
サービス	16,484	14,932	9,291	13,396	15,154	7,533
前年増減率	▲10.7%	▲12.8%	20.1%	▲18.7%	1.5%	▲18.9%
新工ネ・環境	796	1,029	110	742	818	33
前年増減率	▲45.1%	▲14.2%	▲67.9%	▲6.8%	▲20.4%	▲70.0%
合計	48,825	47,127	50,640	49,056	50,788	48,908
前年増減率	▲5.7%	▲2.1%	3.5%	0.5%	7.8%	▲3.4%

事業分野別受注高・売上高・受注残高（百万円）

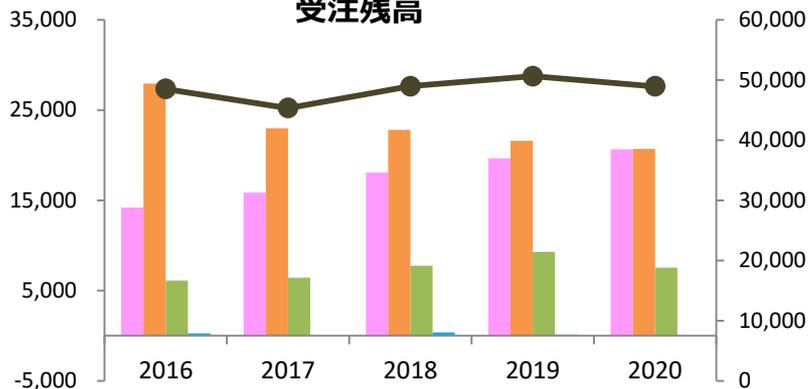
受注高



売上高



受注残高



左軸

ハイテクポンプ

プロジェクト

サービス

新エネ

右軸

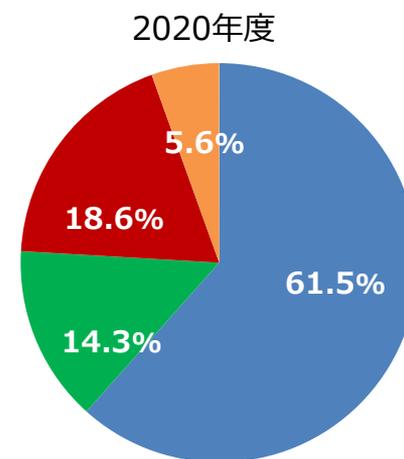
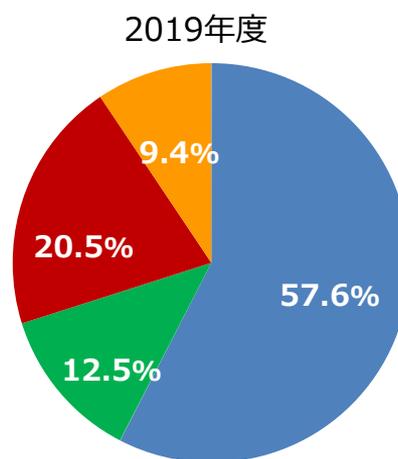
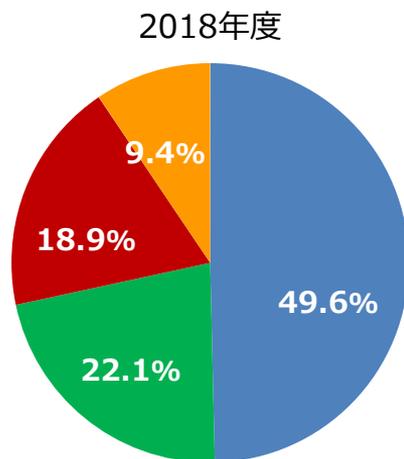
● 合計額

地域別受注高

単位：億円

	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2018年度	257 (49.6%)	261 (50.4%)	114 (22.1%)	98 (18.9%)	49 (9.4%)	518
2019年度	281 (57.6%)	207 (42.4%)	61 (12.5%)	100 (20.5%)	46 (9.4%)	488
2020年度	302 (61.5%)	189 (38.5%)	70 (14.3%)	92 (18.6%)	27 (5.6%)	491

■ 日本
■ アジア
■ 中東
■ その他

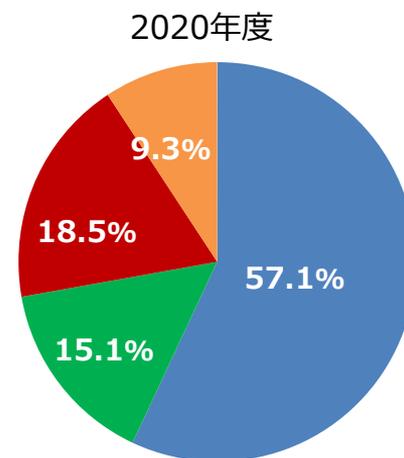
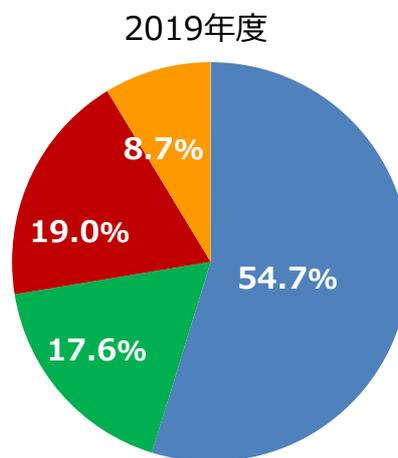
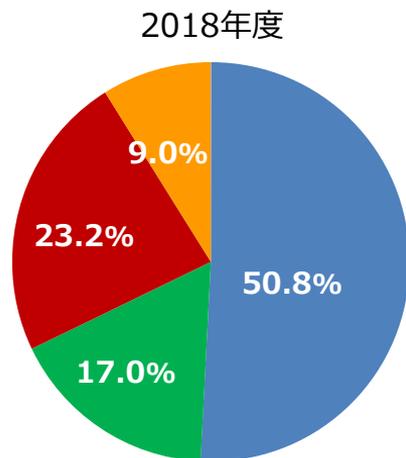


地域別売上高

単位：億円

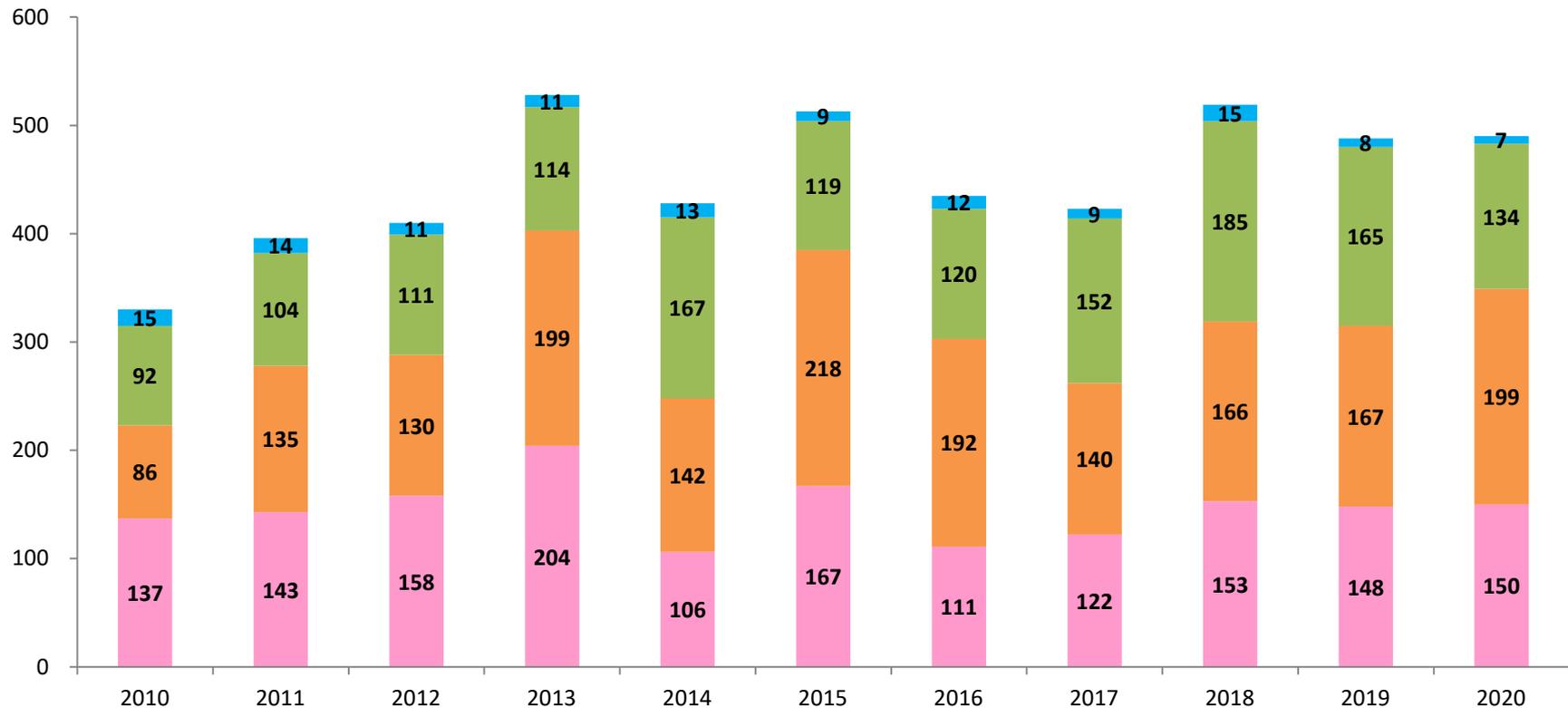
	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2018年度	245 (50.8%)	237 (49.2%)	82 (17.0%)	112 (23.2%)	43 (9.0%)	482
2019年度	258 (54.7%)	213 (45.3%)	83 (17.6%)	89 (19.0%)	41 (8.7%)	471
2020年度	291 (57.1%)	218 (42.9%)	77 (15.1%)	94 (18.5%)	47 (9.3%)	508

- 日本
- アジア
- 中東
- その他



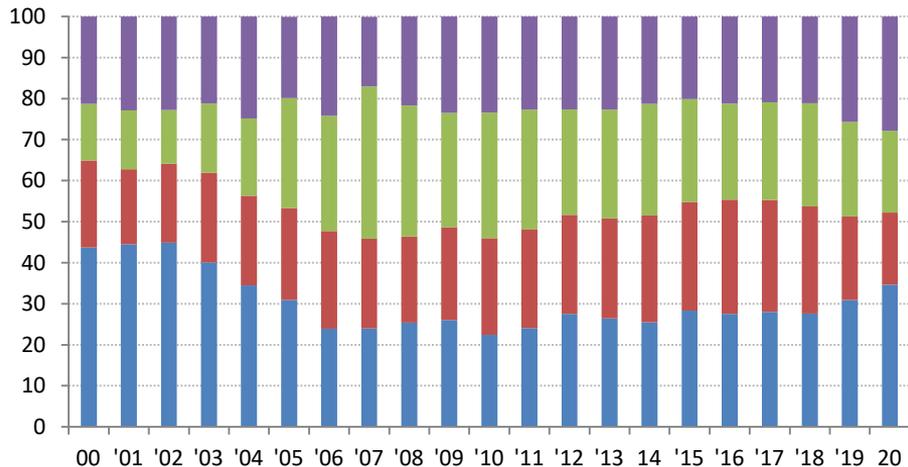
事業領域別受注高の推移 (億円)

■ ハイテクポンプ ■ プロジェクト ■ サービス ■ 新エネ

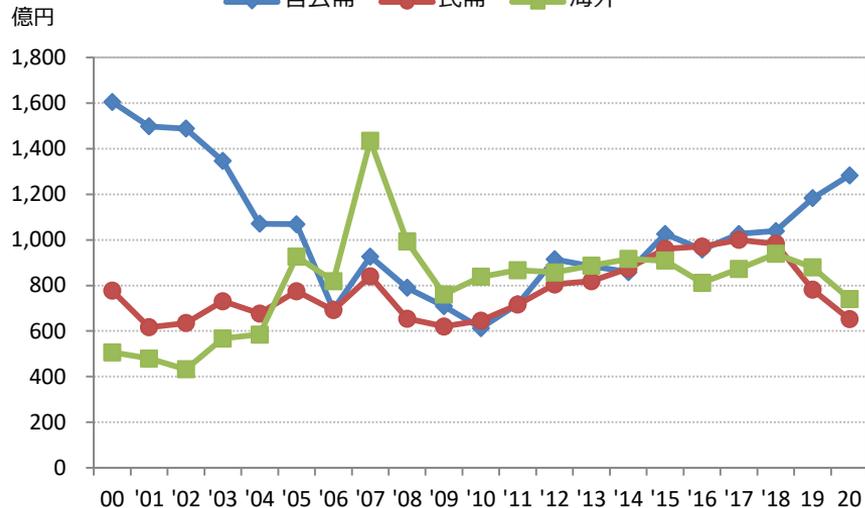


日本のポンプ市場の受注推移

■ 官公需 ■ 民需 ■ 海外 ■ 代理店



● 官公需 ● 民需 ■ 海外



百万円

	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	前年比
官公需	160,550	149,806	148,831	134,685	107,124	106,948	69,504	92,722	79,096	70,999	61,305	71,888	91,545	88,445	85,859	102,582	95,735	102,616	103,944	118,299	128,270	108.4%
民需	77,895	61,733	63,572	73,130	67,732	77,537	69,286	84,067	65,471	62,051	64,668	71,698	80,560	81,964	87,442	96,140	97,087	100,023	98,293	78,094	65,184	83.5%
海外	50,737	48,032	43,247	56,846	58,578	92,770	81,919	143,535	99,326	76,108	83,883	86,763	85,712	88,787	91,612	90,925	81,236	87,290	93,926	87,941	74,124	84.3%
代理店	78,116	76,978	75,608	71,500	77,030	68,459	70,310	65,315	67,590	64,338	64,080	67,712	75,455	76,231	71,510	72,963	73,839	77,073	79,255	98,841	103,640	104.9%
合計	367,298	336,549	331,258	336,161	310,464	345,714	291,019	385,639	311,483	273,496	273,936	298,061	333,281	335,427	336,423	362,610	347,897	367,002	376,418	383,175	371,182	9%

出典：日本産業機械工業会

本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 西島製作所 総務部 I R 広報グループ

Tel : 072-695-0551

Email : ir-torishima@torishima.co.jp